



やるき ほんき き さ き
木佐木

神奈川県議員
日本共産党

2023.8.30
木佐木たまたさ news
発行：党横浜北東地区委員会
横浜市鶴見区潮田 3-147-6
TEL：045-511-1021

Profile
▶1984年山梨県出身
▶鶴見区馬場在住
▶神奈川大学法学部卒
▶よこはま健康友の会会長
▶横浜東民商顧問

地球沸騰化をとめるため、政治の本気を！



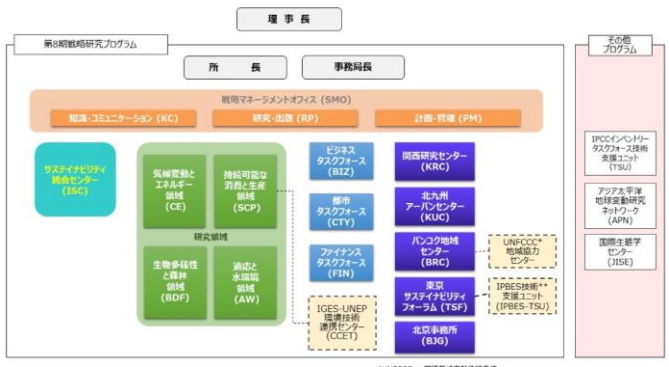
湘南国際村にある地球環境戦略研究機関（IGES）を視察

国内最高峰の環境シンクタンクが神奈川に

2年連続で過去一番の暑さとなったと報じられた今夏。今起きている地球の沸騰化は明日の私たちの健康に大きな影響を与えるとともに、数十年後の地球環境に深刻な影響を与えることは共通の認識だと思えます。

8月29日、共産党県議団として葉山町と横須賀市にまたがる湘南国際村にある「公益財団法人地球環境戦略研究機関、通称 IGES（アイジェス）」に視察に行ってきました。

IGES は様々な国際会議で政府代表として参加するなど、パリ協定を実現するために必要な取り組みを政府や自治体に提言・アドバイスをしています。そうした機関が実は神奈川にあり、県の環境審議会の委員や高校への出前講座、各種自然観察会や観察学習会の開催などで協力してくれています。



IGES の組織体制と研究領域（出典：IGES ホームページ）

まだ 1.5℃ 目標実現は不可能ではない

懇談では、CO₂ 排出量削減の現状についてお話していただき、現行の政策のままだと 1.5℃の上昇どころか 2.7℃上昇という深刻な状況になってしまうこと、意欲的な目標引き上げとそれに伴う行動が必要であることが強調されました。

県議団としても、この間問題意識としてあった、各種県の計画で進捗管理を行う指標（KPI）の設定の在り方など意見を伺いました。例えば CO₂ 排出量削減の指標として、削減計画を作った企業の数という指標があったとしても、それによる削減量やその実効性が担保されなければ、その指標に何の意味があるのでしょうか。県の計画にはこうした問題点があったりします。

また、横須賀の石炭火力発電所が今年、来年と続けて稼働しますが、いくら高効率になってもパリ協定の方向性と両立しえないとの話もありました。大きく遅れているとはいえ、今が気温上昇 1.5℃以内に抑えるための瀬戸際です。政治の本気を発揮して環境を引き継げるよう責任を果たしていきたいと思えます。